

# 心豊かな世代が育つ

## 童話の里づくり

409

―シリーズ― あなたの人權・わたしの人權

### 「プラスの声かけ」

小田小学校6年

後藤 栞那

私たちは、昼休みによくサッカーをしています。

この日も、低学年から高学年まで七、八人ぐらいでサッカーをしていました。相手のチームが最初に点を取り、

「やったあ。イエーイ。」と、言って喜んでいました。

その後も相手チームが点を取り、私たちのチームはどんよりとした雰囲気になりました。だんだんやる気がなくなり、パスも通らなくなってきました。

そして、さらにみんなのいらいらが積もり、友だちに文句を言ったりあたってたりしてしまう人が出てきました。

そんな時、相手のチームの「いいよ！この調子でいけば勝てるよ。」

という言葉が聞こえてきたのです。私はもつといやになり、

「その言い方、やめてくれる？」と、言ってしまいました。

すると、相手チームの友だちに、「なんで？こっちのチームは『プラスの声かけ』で言っているんだからいいじゃん。」

と言われ、私たちのチームの中だけでなく、相手チームとの雰囲気も悪くなってきました。

そして、ついには、ボールがライオンから出たときに、

「こっちのボールやろー！」

「いや、こっちのやろー！」

と、言い合いになりました。私は、「もういいー！」と、おこってポジションに戻りました。

昼休みが終わって、私はいやな気持ちのままそうじ場所に向かっています。

その時、相手チームの友だちに、「さっきはいやになることを言って、ごめんね。」

と言われ、びっくりしました。私は、「いいよ、大丈夫、大丈夫。」

と言って、そうじ場所に行きました。それまでのもやもやしたいやな気がなくなり、すっきりした気持ちになりました。

あとから思い返してみると、点を取って喜ぶことは悪いことではないと思うし、くやしい気持ちがあっても友だちにあたるのはよくないことだと思えます。

私は、その時はいらいらした気持ちが強かったので、まわりのことを考えず強い言葉を使っていました。でも、言いに来た相手チームの友だちは、私たちが気分を悪くしたことを気にして声をかけてくれて、すこいと思えました。

またこのことは、六月に道德の授業で学習した「礼儀」ともつながっていると感じます。

この授業で、私は「礼儀」とは「相手に敬意を表す行動のしかた」

であり、「敬意」とは「相手を大切にしようとする気持ち」であることがよくわかりました。

私は、今年の運動会で団長になりました。

だから、この経験や思いを生かし、自分のチームだけではなく、相手のチームの気持ちも大切にして、声かけや応援をしていきたいと思っています。また、みんながいやな気持ちにならないように考えて、「プラスの声かけ」をしていきたいです。

この人權作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みなさんの投稿もお待ちしています。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを、二〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して(匿名可)、玖珠町教育委員会 社会教育課「あなたの人権・わたしの人権」までお届けください。

